

様式第三号(第一条関係)

(表 面)

※※ 第 号	※市 区 町 村 令和 年 月 日 受付年月日	被災前の財産の概要とその価格 損傷の程度とその金額
※経 由 村 名	※町 村 出 令和 年 月 日 号 ※再 提 出 令和 年 月 日 号 第	④ 財産の種類 宅地
※町 握 提 出		④ 被災状況 建物 住宅でない物 その他財産
<u>児童扶養手当被災状況書</u>		
① 提出者 氏名	証書番号	第 号
② 被災者 氏名	提出者の続柄	
③ 災害の種類 被災年月日	職業	
④ 財産の種類 被災状況	被災前の財産の概要とその価格	損害の程度とその金額
上記のとおり、被災状況を申し立てます。		
令和 年 月 日	令和 年 月 日	氏名 殿
都道府県知事(福祉事務所長) 市町村長(福祉事務所長)		
※※審査	上記のとおり、相違ありません。 令和 年 月 日 町村長 印	

◎ 裏面の注意をよく読んでから記入して下さい。※、※※の欄は記入する必要があります。

◎ 字は楷書ではっきりと書いて下さい。記名押印に代えて署名することができます。

注意

- 1 ①の欄の「証書番号」は、児童扶養手当証書の交付を受けていない人は記入する必要はありません。
- 2 ②の欄の「被災者」とは、手当を受けることができる人、その配偶者又は扶養義務者(父母、祖父母、子、孫、兄弟姉妹など)で震災、風水害、火災などの災害により、住宅、家財その他の財産(自分の所有するもののはほか、所得税法に定める同一生計配偶者又は扶養親族の所有する財産を含みます。)について、その価格のおせね2分の1以上の損害を受けた人をいいます。
- 3 ③の欄の「災害の種類」は、震災、水害、火災などの別のはほか〇〇台風などのように、なるべくわしく記入して下さい。
- 4 ④の欄の記入については、次の事柄に留意して下さい。
 - (1) 被災前の財産の概要とその価格
財産は、被災者又はその同一生計配偶者若しくは扶養親族の名義のものでなければなりません。また、財産は住宅、家財又は主たる生計のために使用している田畠、宅地、住宅でない建物その他の財産のうち、最も被災の大きかったものについてのみ記入すれば十分です。住宅について被災を受けたときは、当然家財に被災を受けますが、その場合には住宅についてのみ記入すればよく、その住宅が被災者又はその同一生計配偶者若しくは扶養親族の名義のものでないときは、家財について記入して下さい。
イ 「住宅」については、その規模、構造、延面積、価格等を記入して下さい。(例木造平家建60平方メートル約50万円)
ロ 「家財」については、家財の主な種類、名称、価格の総額等を記入するとともに、あわせて、住宅の規模、構造、延面積などを記入して下さい。
ハ 「田畠」については、田、畑別及びその総面積、価格等を記入して下さい。
ニ 「宅地」については、その総面積、価格等を記入して下さい。
ホ 「住宅でない建物」については、店舗、工場、倉庫、納屋などの名称ごとの規模、構造、延面積、価格等を記入して下さい。
ヘ 「その他の財産」については、機械、器具、荷車、漁船、牛馬、水車等事業用の資産などの種類、名称、数量、価格等を記入して下さい。
 - (2) 損害の程度とその価格
イ 損害の程度は、「住宅」及び「住宅でない建物」については、流失、全壊、半壊、土砂流入、軒下浸水、床上〇〇メートル浸水、全焼、一部焼失等のように記入して下さい。
「家財」については、その家財の存した住宅の被害の状況を記入して下さい。
「田畠」及び「宅地」については、流出、冠水、〇〇センチメートル土砂(泥土、砂礫)堆積等の別及びその被害面積を記入して下さい。
「その他の財産」については、財産の種類に応じて具体的に記入して下さい。
ロ 損害の金額は、時価〇〇万円のように記入して下さい。
- 5 この被災状況書についてわからぬところがありましたら、市役所、区役所又は町村役場の人によく聞いて下さい。